

Contents

新たな取り組み

- 02 オンサイトでの土壌除染の取り組み
- 04 洪水中の土砂動態を測る、河床変動の把握にむけて
- 06 遺伝子解析手法による魚卵同定技術の開発

Working Report

- 08 絶滅魚類リュウキュウアユの復元
人工産卵水路の設計と順応的管理
- 10 橋梁モニタリングシステム
効率的な維持管理のために

人と地球の未来のために――

いであ株式会社

Column

サンゴ礁を守る ～生物多様性保全に向けた海洋保護区の設定～

ヨハネスブルグ・サミット(2002年)以来、海洋の生物多様性の保全と生態系サービスの持続性を維持する観点から「海洋保護区(MPA: Marine Protected Area)」とそのネットワーク構築が国際的課題となっています。生物多様性条約COP10(2010年)で合意された「愛知目標」では、2020年までに世界の海域の少なくとも10%をMPAとして保全することとされました。それらを踏まえて、わが国の生物多様性国家戦略2012-2020でも、管轄権内水域の10%を保護区化の目標としています。

海域のうち、とりわけサンゴ礁生態系は、熱帯雨林に匹敵する多くの生物種で構成されており、地球規模の生物多様性を確保するうえで重要なものです。多様な生物の産卵・生息の場であることが、漁業資源や観光資源といった恵みをもたらし、また自然の防波堤を形成し防災機能を果たしています。このため、近年わが国ではサンゴ礁等の重要な浅海域に保護地域を指定、拡大する取り組みが進められています。

そのなかで、去る3月5日「サンゴの日」に「慶良間諸島国立公園」(沖縄県)が誕生したことは、シンボリックな出来事でした。

「慶良間諸島」の魅力は、その「ケラマブルー」と呼ばれる、非常に透明度の高い碧い海にあります。その海には多様な造礁サンゴが高密度に生息し、ダイビングのメッカとなっています。また、ケラマブルーの中に大小20あまりの緑の島々が溶け込む多島海の景観美もまた、この国立公園の魅力となっています。実に公園面積の約96%を海域が占める、まさに海が主役の国立

公園です。31番目の指定となったこの国立公園は、国際的な海域保全の潮流の中で、わが国で初めて誕生した海域の保全を主たるテーマとした国立公園として特別な意味を持っています。

慶良間の海域は、世界のサンゴ分布の北限にあたる沖縄本島周辺へのサンゴ幼生の重要な供給源であるとともに、回遊性のザトウクジラの北半球での個体群を支える繁殖の場となっています。

このように、慶良間諸島国立公園は、海洋における生態系ネットワークの核となる海域を保全する役割を併せ持ったMPAであるといえます。今後「エコシステムアプローチ※」の考え方に基づいて、生態系のモニタリング、予防的保管理、柔軟で積極的な再生の取り組み等を、漁業やツーリズムと共存しながら実現していく、サンゴ礁域のMPAのモデルとして期待されています。

※エコシステムアプローチ:生物多様性条約COP5で合意された自然資源管理の基本的原則。12の原則と5つの運用指針からなり、長期的広域的視野、科学的知見、予防的対応、モニタリング、順応的対応等が重視されている。



けらま 慶良間諸島国立公園(座間味村周辺海域)



CORPORATE DATA

社会基盤の形成と環境保全の総合コンサルタント

商号	いであ株式会社
創業	昭和28年5月
本社所在地	東京都世田谷区駒沢3-15-1
資本金	31億7,323万円
役員	代表取締役会長 田畑 日出男 代表取締役社長 細田 昌広
従業員数	837名(2014年4月1日現在、嘱託・顧問を含む)

事業内容

■社会基盤整備に係る企画、調査、計画、設計、管理、評価

- 河川計画、海岸保全計画、河川・海岸構造物の設計・維持管理、道路・交通・都市計画、橋梁の設計・維持管理
(要素技術一例)・現地調査(波浪観測、漂砂調査、測量、道路環境・交通量調査等)
・シミュレーション(氾濫・土砂動態・水理解析、波浪変形・海浜地形変化予測、高潮・津波解析、各種構造解析等)
・交通需要予測・解析、交通事故対策、社会実験、PI、景観予測評価、構造物劣化予測等

■社会基盤整備に係る環境アセスメント(調査計画立案、現地調査、予測評価、対策検討、事後調査)、環境計画

- 港湾、埋立、空港、ダム、発電所、河口堰、道路、新交通システム、清掃工場、住宅・工業団地、下水処理場等
(要素技術一例)・環境調査(水域・陸域・大気域、動植物の分布・生態、景観、航空・リモートセンシング調査、気象観測等)
・理化学分析(水質、底質、大気質、生物、土壌、廃棄物等)
・シミュレーション(水質、底質、大気質、悪臭、騒音・振動、波浪、気候変化、汀線・地形変化、漂流物等)
・自然再生技術、環境保全対策技術、生態系評価(生活史・生息環境・干潟生態系モデル等)、PI
・地球温暖化対策調査、再生資源利用調査、アメニティ環境調査、自然環境DB構築、地域特性の可視化、LCA

■環境リスクの評価・管理

- ダイオキシン類・PCB類・POPs・放射性物質・残留農薬・重金属類・環境ホルモン・VOC等の調査・分析、ヒト生体試料中(血液、臍帯血、尿、毛髪等)の化学物質・農薬等代謝物分析、食品分析、土壌汚染評価、GLP対応の生態影響・毒性試験、化学物質の環境実態・曝露量の解析・評価、汚染メカニズムの解明

■自然環境の調査・解析、生物生息環境の保全・再生・創造

- 動植物調査、サンゴ礁・藻場・干潟・海浜の保全・再生・創造、河川・湿地・ヨシ帯の自然再生、魚道・多自然型水辺空間・ワンド・淵の計画・設計、アオコ・赤潮発生対策、生物の移植・増殖
(要素技術一例)・生物同定・分析技術(DNA分析、アイソザイム分析、細菌・ウイルス検査、データ集計・解析処理システム等)
・解析(営巣・行動圏・採餌環境解析、生態系・生活史モデル、統計解析、漁業資源解析、アオコ・赤潮発生予測等)
・生物飼育実験設備における飼育・増殖試験、希少生物の保護・育成技術開発、埋土種子による植生の復元

■情報システムの構築、情報発信

- 河川水位計測システム、衛星画像解析、GISアプリケーション開発、基幹系システム開発、気象・海象・防災情報配信

■災害危機管理、災害復旧計画

- 危機管理支援(危機管理計画、災害時対処マニュアル作成、災害訓練企画・運営)、災害査定・被害状況調査、災害復旧・改良復旧事業支援、人命・資産の安全確保
-災害情報支援システム、降雨・洪水予測システム、氾濫解析・予測システム、洪水・津波浸水ハザードマップ
-除染計画策定支援

■海外事業

- 環境に配慮したインフラ整備(地域総合開発、水資源開発、上水道、港湾、海岸、道路、橋梁、下水・廃水・廃棄物処理)
-災害マネジメント(治水・砂防)、環境保全・創出(環境社会配慮、環境アセスメント、環境保全計画、公害対策等)
-アメニティ(観光開発、都市計画、水辺の再生等)、技術者受け入れ、専門家派遣

本 社	〒154-8585	東京都世田谷区駒沢 3-15-1	電話:03-4544-7600
環 境 研 究 所	〒224-0025	神奈川県横浜市都筑区早渕 2-2-2	電話:045-593-7600
環 境 創 造 研 究 所	〒421-0212	静岡県焼津市利右衛門 1334-5	電話:054-622-9551
食 品 生 命 科 学 研 究 所	〒559-8519	大阪府大阪市住之江区南港北 1-24-22	電話:06-7659-2803
亜 熱 帯 環 境 研 究 所	〒905-1631	沖縄県名護市宇屋我252	電話:0980-52-8588
大 阪 支 社	〒559-8519	大阪府大阪市住之江区南港北 1-24-22	電話:06-4703-2800
沖 縄 支 社 / 沖 縄 支 店	〒900-0003	沖縄県那覇市安謝 2-6-19	電話:098-868-8884
札 幌 支 店	〒060-0062	北海道札幌市中央区南二条西 9-1-2(サンケン札幌ビル)	電話:011-272-2882
東 北 支 店	〒980-0012	宮城県仙台市青葉区錦町 1-1-11	電話:022-263-6744
福 島 支 店	〒960-8011	福島県福島市宮下町17-18	電話:024-531-2911
北 陸 支 店	〒950-0087	新潟県新潟市中央区東大通 2-5-1(KDX新潟ビル)	電話:025-241-0283
名 古 屋 支 店	〒455-0032	愛知県名古屋港区入船 1-7-15	電話:052-654-2551
中 国 支 店	〒730-0841	広島県広島市中区舟入町 6-5	電話:082-207-0141
四 国 支 店	〒780-0053	高知県高知市駅前町 2-16(太陽生命高知ビル)	電話:088-820-7701
九 州 支 店	〒812-0055	福岡県福岡市東区東浜 1-5-12	電話:092-641-7878
シ ス テ ム 開 発 セ ン タ ー	〒370-0841	群馬県高崎市栄町 16-11(高崎イーストタワー)	電話:027-327-5431
営 業 所		青森、盛岡、秋田、山形、福島(いわき)、群馬、茨城、北関東、千葉、神奈川、相模原、富山、金沢、福井、山梨、伊那、長野、岐阜、恵那、安八、静岡、伊豆、 菊川、西尾、三重、名張、滋賀、神戸、奈良、和歌山、山陰、岡山、下関、山口、徳島、高松、高知、北九州、佐賀、長崎、熊本、宮崎、奄美、沖縄北部	
海 外 事 務 所		ジャカルタ(インドネシア)、マニラ(フィリピン)	

I-NET

MAY 2014 Vol.37 (2014年5月発行)

編集・発行:いであ株式会社 経営企画本部企画部
〒154-8585 東京都世田谷区駒沢3-15-1
TEL: 03-4544-7603, FAX: 03-4544-7711
ホームページ: <http://ideacon.jp/>

人と地球の未来のために —
いであ株式会社

お問い合わせ先
E-mail: idea-quay@ideacon.jp

